

〈専門領域名〉

# 病理診断科

専門研修プログラム名	川崎医科大学病理専門研修プログラム		
連携施設群 (連携施設一覧)	川崎医科大学総合医療センター、独立行政法人国立病院機構福山医療センター、独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター		
募集定員数	各年次 2 名	研修期間	3年間
専門研修プログラムの概略	<p>1. 専門研修プログラムの内容(概略)</p> <p>本プログラムでは、当院での研修を基本とし、病理診断、術中迅速診断、細胞診、病理解剖に関する研修と、病院病理部内カンファレンス、および他の診療科とのカンファレンス等を通じ臨床病理相関の研修を行う。3年間の研修期間のうち6か月は連携施設で研修を行うが、現時点で対象としているのは総合医療センターのみである。他の2つの連携施設に対しては、指導医とともに病理解剖(出張解剖)や病理診断に関する診療支援を行い、病理医としての地域医療への貢献の仕方についての研修を行うことに重きを置いている。研修の過程において、死体解剖資格の取得が可能である。学会発表等の学術活動についても積極的に支援する。</p> <p>研修に際しては、シニアレジデントの身分と同時に、大学の臨床助教として病理学教室に所属するが、本学の病理学教室は臨床医学講座の一つとして位置付けられているのが大きな特徴である。また、研修期間中に大学院への進学(大学院在職進学制度の利用を含む)を希望する場合のプログラムも策定している。</p>		
	<p>2. 当専門研修プログラムの研修スケジュール</p> <p>本学附属病院病院病理部における研修を基本とする。3年間のうち6か月間を総合医療センターで研修するが、以下の4つのパターンが選択できる。</p> <p>1) 2年間は毎週半日を総合医療センターにおいて研修し、3年目にそれまでの合計を6か月から差し引いた期間、連続して総合医療センターで研修する。</p> <p>2) 1年目と2年目は附属病院で研修、3年目は6か月を総合医療センター、6か月を附属病院で研修する。</p> <p>3) 1年目は附属病院で研修、2年目と3年目はそれぞれ3か月を総合医療センター、9か月を附属病院で研修する。</p> <p>4) 大学院生として研修を行うパターン(希望者とは別途相談する)</p> <p>以上いずれの場合も、依頼があった際に福山医療センター・鳥取医療センターへの診療支援に参加することがある。</p>		
	<p>経験すべき必要症例数: 病理解剖30件、病理組織診5,000件、迅速診断50件、細胞診1,000件。また、人体病理学に関する論文・学会発表3編、日本病理学会が定める講習会の受講、死体解剖資格、などが必要。詳細は以下を参照すること。</p> <p>病理専門医専攻医マニュアル <a href="http://pathology.or.jp/senmoni/3_senkoui_manual.pdf">http://pathology.or.jp/senmoni/3_senkoui_manual.pdf</a>  日本病理学会病理専門医整備基準 <a href="http://pathology.or.jp/senmoni/1_seibikijun.pdf">http://pathology.or.jp/senmoni/1_seibikijun.pdf</a></p>		
プログラム統括責任者	ふりがな 氏名	もりや たくや 森谷 卓也	所属・役職 病院病理部・部長 (病理学教授)
プログラム担当者	ふりがな 氏名	もりや たくや 森谷 卓也	所属・役職 病院病理部・部長 (病理学教授)
問合せ先	Tel: (086)462-1111(代表) 内線(24129) E-mail: 病理学 tmoriya@med.kawasaki-m.ac.jp		(部署名) 病理学教室:25508 病院病理部:24129